

活動報告

特定非営利活動法人自然再生機構

平成 23 年 2 月 26 日に大分県由布市庄内町において自然再生活動（クヌギ・コナラ類を主に一部果樹類、計 2,500 本の植付け作業）を実施、今年で 3 年目を迎えることになった。この間、生育状況のモニタリングを継続してきたが、ススキ・クサギ等の先駆種がかなり繁茂し、このまま二次遷移を自然生態系のテーマとして、その推移を見守るべきか、植付け苗の周辺だけでも下草刈りを行なうか、通路部分（作業道）の刈払を行なうかといった状況下にある。獣害の対処方法として生態的防除法の採用、つまり下刈り方法を考慮して被害対象木の周辺に植生を残して獣類による樹木への摂食圧を減少、被害の軽減を図るといった選択肢もある。

今回、現地でゆっくり観察しながらそういった判断を行なうこととして、下記のとおり実施したので報告します。

記

実施日時 平成 25 年 6 月 1 日（土）～ 2 日（日）

スケジュール （1 日目：少雨決行）

湯布院「道の駅」集合	10 : 30
意見交換・作業開始	11 : 00
（昼食）	12 : 00
作業再開	13 : 00
作業終了、片付け	16 : 00
反省会	18 : 00

（2 日目：雨天のため作業中止）

朝食	7 : 00
その後、解散帰途へ	8 : 30

対 象 生憎の天候で、結果的に会員のみ参加となった。（参加者計 9 名）

参加者の顔ぶれ



作業前（進入路より）



刈払状況



刈払状況



昼食



刈払状況



刈払状況



内部の植生状況



記念樹クスノキ

現地の植生状況（1）



現地の植生状況（2）



現地の植生状況（3）



現地の植生状況（4）



現地の植生状況（5）

